

育ちと学びをつなぐ 幼保小の連携・接続 ～鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイント～

令和5年6月

架け橋期(5歳児4月から小学校1年生3月まで)の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期です。子どもたちの育ちと学びのつながりを園と小学校等の先生と一緒に考えていきましょう。

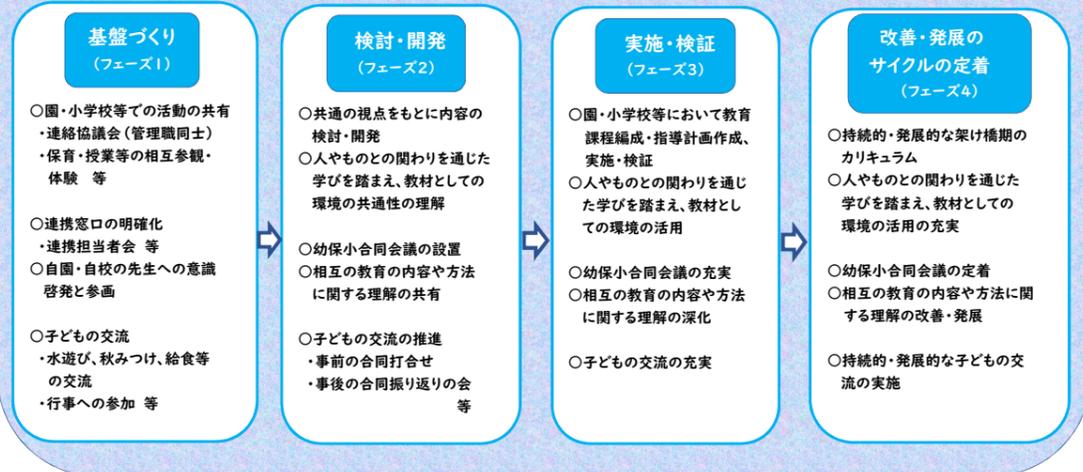


1 「架け橋期のカリキュラム」の進め方を確かめよう!



園・小学校等での具体化の進め方(各フェーズ)のイメージ

※手引きP.15, 34, 48
※鳥取県幼保小接続ハンドブック「育ちと学びをつなぐ」P.9~14 参照



2 「架け橋期のカリキュラム」を進める過程で大切にしたいことを共通理解しよう!

子どもの育ち(姿)を中心に対話しよう!

語ろう! 子どもたちのこと

実際の子どもたちの様子と一緒に見る機会をもちましょう。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に語り合しましょう。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期において育みたい資質・能力が育まれている具体的な姿です。

相談しよう! 期待する子ども像(めざす子ども像)

市町村・校区でどんな子どもを育てたいか語り合い、定めましょう。この姿をめざして園・小学校等でそれぞれの取組を考えます。

知ろう! 園のこと・学校のこと

それぞれに尊重すべき違いがあります。一方が他方に合わせるといったものではありません。互いの教育内容・大切にしている指導や支援を知ることが大切です。

つなげよう! 育みたい資質・能力

園と小学校等が共通の視点について話し合うことで、指導内容や指導・支援が、具体的かつ系統的につながります。

連続性・一貫性のあるカリキュラムに ~園と小学校等とともに~ 互いに学び合い、カリキュラム・教育方法の改善を進めていきましょう。



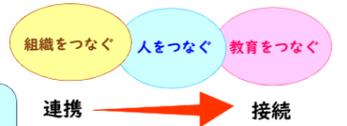
3 「架け橋期のカリキュラム」を検討・開発していこう!

①ここからスタート!

「期待する子ども像(めざす子ども像)」を園と小学校等で共有しよう。

②園と小学校等が共通の視点で話し合い、互いに理解し合おう。

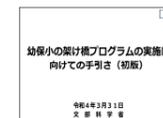
③話し合ったことを「架け橋期のカリキュラム」として可視化しよう。



5歳児												小学校1年生												
共通の視点として考えられる項目(例)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期待する子ども像(めざす子ども像)	架け橋期の2年間を通して、どのような子どもを育てたいか。※手引きP.24,25 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにし、保育や学習、生活の場面から具体的な子どもの姿をあげて話し合う。																							
育みたい資質・能力	「期待する子ども像」をどのような「育みたい資質・能力」で捉えるのか。 ・「期待する子ども像」を具体的な子どもの姿であげ、「育みたい資質・能力」で整理する。																							
遊びや学びのプロセス	「期待する子ども像」の育成に向けて、子どもの姿や発達を踏まえ、遊びや学びのプロセスをどのように深めていくのか。※手引きP.26,36~38 ・「期待する子ども像」に近づく具体的な事例を出し合い語り合うことで、お互いの「遊びや学びのプロセス」について理解し、教育・保育方法について見直す。																							
園で展開される活動 / 小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等	「期待する子ども像」の育成に向けて、園の活動と小学校の各教科等の教育内容や活動をどのようにつなげていくか。※手引きP.27,28,39~42 ・園 : 小学校以降の生活や学習を見通した幼児教育の工夫 ・小学校等 : 園での遊びや生活を踏まえた小学校教育の工夫 スタートカリキュラムによる生活科を中心とした各教科等の合科的・関連的な指導の工夫 ・園と小学校等 : 共通に充実をめざす活動や体験の共有																							
指導上の配慮事項	先生の関わり ・子ども同士の考えをつなぎ、子どもとともに創造する、多様な子ども一人一人の可能性や活躍の場を引き出す集団づくり、といった視点は共通していることを踏まえ、各施設段階での先生の関わりや役割について捉える。※手引きP.43,44 遊びや学びのプロセスを深めるため、先生の関わり、環境の構成や環境づくりとしてどのような工夫があるか。※手引きP.29 環境の構成・環境づくり ・子どもにとっての教育的価値の視点から、その共通性の理解を深め、教材としての環境づくりを考える。※手引きP.45,46																							
子どもの交流	交流を通した学びを深めるため、各園・小学校の年間の活動に、子ども同士の交流などをどのように位置付けるのか。※手引きP.30 ・年間計画に子ども同士の交流を位置付け、交流する対象の年齢・学年、交流時期、交流のねらい等を共通理解する。																							
職員の交流	園と小学校等の先生同士の交流(連絡協議会・合同研修会・交流の振り返りの会等)を年間計画に位置付け、子どもの育ちを共有する。																							
家庭や地域との連携	「期待する子ども像」について家庭や地域と共有し、どのように連携協働していくのか。※手引きP.30																							
評価	園と小学校等の先生が実践と一緒に振り返り、評価する。																							

○「架け橋期のカリキュラム」は、幼保小の先生が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定できるように工夫しましょう。※手引きP.21

※手引き...幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版) 参照 (令和4年3月31日 文部科学省)



詳しくは、文部科学省のホームページへ!
幼保小の架け橋プログラム 検索

